

2024（令和6）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493000408	事業の開始年月日	平成24年3月1日
		指定年月日	平成29年8月1日
法人名	プラウドラフ株式会社		
事業所名	グループホームはなことば高座渋谷		
所在地	(242-0023) 神奈川県大和市渋谷7-24-1		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和6年8月8日	評価結果 市町村受理日	令和6年11月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

高座渋谷駅から徒歩3分の場所にあり、近隣には買い物に便利なイオンやビックヨーサン、駅前には複合型ビルIKOZAがあります。IKOZAには大和市役所分室や病院・スーパー銭湯等が入っており暮らしやすい環境が整っています。ホーム内は日光を多く取り入れ開放感を演出する為に大きな窓を設置しています。スタッフには定期的に内部研修や外部研修を受けて貰い資質向上に努めています。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年9月27日	評価機関 評価決定日	令和6年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急江ノ島線「高座渋谷」駅東口から徒歩3分、駅から近い住宅地域の一角にあり、3階建て建物のうち2階、3階を使用しています。1階に同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護施設が併設され、事業所の管理者が施設長を兼務しています。
＜優れている点＞ 事業所では造語の「共想」という考え方を大切に、利用者、家族、職員が共に生き、支え合い、優しい想いに溢れるホームづくりに努めています。またそれと同時に、職員間でグループワークを中心とした内部研修や、資格取得を通じて専門的な知識を習得し、切磋琢磨しながら質の高いサービスに取り組んでいます。事業所の目標として『「今」という時間を大切にし、「これから」の時間を共に作り上げていく』を掲げ、利用者の思いや希望を汲み取り、出来る限り叶えていくために職員はどう対応していくかを考え、本人の人生が楽しくなるよう支援していくことを目指しています。例えば相撲が好きな利用者がいたら相撲番組のテレビを見たり、お菓子作りの好きな利用者にはケーキ作りを手伝ってもらうなどを実践しています。法人はその人らしい生活の実現のために、新たに詳しいアセスメント表（生活歴）を策定し、今までの人生のキャリアや趣味、余暇、これからどんな風に過ごしたいかなどを家族の協力を得ながら把握に取り組んでいます。
＜工夫点＞ 法人の方針に基づき、2023年から睡眠解析技術をベースにした高齢者見守りシステムを導入しています。居室に配置した各種センサーにより、利用者の睡眠時間、心拍数、体動などをリアルタイムにモニタリングし、業務のICT化を図るとともに質の高い介護サービスに繋がっています。センサー機能の導入により、夜間の居室への巡回はアラームが作動した時に留め、利用者の安眠を妨げないことが可能となっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	12 ～ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	17 ～ 23
V アウトカム項目	56 ～ 68	

株式会社フィールズ

事業所名	グループホームはなことば高座渋谷
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
		○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホーム長の想いや考えを事業所の理念としスタッフはその理念に沿ったケアを心がけている。玄関には理念を掲示し常に目に入る様にしている。	利用者に寄り添いながら本人の思いや希望を汲み取り、何が本人のために大切なのかを見極めています。事業所の理念に沿って「今」という時間を大切にしながらたくさんの幸せを感じられるよう支援し、「これから」も本人にとって輝いた人生になるよう取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会長とは顔合わせをし、今後の自治会の方針等伺った。今年度は中止していたイベントや訓練などを再開する予定との事なので、その際には地域住民として参加する予定。	コロナ禍で活動を休止していた地域の自治会が今年度から再開し、8月に近くの小学校で行われた夏祭りに参加しています。今後、利用者と職員が地域清掃、防災訓練と一緒に参加することを計画しており、地域でのつながりを広げていく方針です。	ボランティアの受け入れなど地域資源を活用し、外出支援などを充実していくことが期待されます。加入している高等町自治会は幅広い活動実績があり、さらに地域に密着した連携が期待されます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の方から問い合わせや相談があった際には出来る限り時間をかけ相談を受け利用にしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催している。 なかなかその場ではご意見をいただくににくいので、議事録をお送りする際に「意見書」と「返信用封筒」を同封し、出席されなかった方からもご意見がいただきやすい様にしている。	運営推進会議は併設する小規模多機能型居宅介護施設と合同で開催し、地域包括支援センター職員や大和市介護保険課職員、家族、利用者も参加しています。利用状況、活動報告、事故報告、食材料費値上げなどを情報共有し、事業所の運営に理解を得ています。	運営推進会議へ地元の自治会会長に声かけをしていますが参加が実現していません。運営推進会議を活かして地域に密着した活動につなげていくために自治会や民生委員などの参加が期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の資料を2ヶ月毎にお送りし、日頃の取組や事故報告などをお伝えしている。	行政の窓口である大和市介護保険課には、運営推進会議の議事録を送付し事業所の活動状況を伝えています。行政とのやり取りは行政の電子通信欄を活用して行っています。新型コロナウイルスが発生した際は保健所や神奈川県との窓口と連絡を取り、対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を定期的開催し、身体拘束に繋がりそうなケアは無いか確認している。 研修は年2回行い、当社の指針の確認やそこに基づいたケアが行えているのかスタッフ達自身に考えさせる研修を行っている。	スピーチロックにならないよう、「座ってて」と言う場合には利用者になぜなのか理由を伝えたり、「待ってて」と言う時はあとのくらいかをしっかり伝えています。研修はグループワーク形式で、夜間時に同時に2人の利用者に対応する場合の事例を取り上げ、どう対応するのか職員間で話し合っています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会では虐待に繋がりそうな具体的事例をを挙げ不適切ケアを行わない様に心がけている。	順番に入浴介助する場面で職員が「早くして」などと発言し、急かしてしまう行為や、食後眠たそうなので本人に聞かず無理やり居室に連れて行こうとする行為など、職員側のペースや思い込みでケアを行わないよう気をつけています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度に関して学べるような機会は事業所で設けていない。 制度が必要な方がいればスタッフ間でも話し合い必要に応じて行政にも相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書等の内容は専門用語も多く分かりにくい為、理解しやすいように細かな補足や説明を入れている。 疑問点やご質問にはご理解いただけるまでご説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に一度ご家族様にアンケートをお送りしご意見等をいただいている。 ご意見は運営に出来るだけ反映出来るように努めている。	利用者からの要望で果物や饅頭、ケーキなどを盛り付けたスイーツバイキングを月1回フロア合同で実施しています。利用者は毎月楽しみにしており、用意されたスイーツはすべて完食しています。法人の家族向けアンケートでは、事業所に対する家族からの感謝が伝えられています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	携帯から匿名で行えるスタッフ向けのアンケートを年に一度実施している。 アンケート結果は本社で集約しフィードバックされる。全ての意見を今後反映できるわけでは無いが、出来るだけそうなる様に努めている。	職員向けのアンケートでは、「現場での職員が足りない。人員の補充をしてほしい」などケアの充実を図るための要望が多く寄せられています。個人面談などで意見を聞いていますが、すぐに反映できないものもあります。予算面や法人の方針から実現するのが難しいものでも職員のモチベーションが下がらないよう理由を説明するなど伝え方に配慮しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回人事考課があり昇給や賞与に反映させている。人事考課では各々目標を立てその目標に対してどれ位達成できたかを確認している。給与は昨今の物価上昇を加味し水準の引き上げを行ったり公休数を昨年度に比べ増やしたりしている。	職員の有給取得は希望に沿えるよう配慮しています。残業は夜勤明けシフトで多少生じることがあるもののそのほかはありません。職員の様子が無表情だったり、調子が悪そうな場合にはすぐ声をかけて休憩してもらい職員にストレスがかからないよう注意しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入職時には4日間の入社時研修を受けて貰い実際にホームで勤務を始める際にはOJTをつけて教育をしている。年間研修計画を立て毎月研修を実施し資質向上を図っている。また必要な外部研修には参加してもらい更なるスキルアップも図っている。	職員育成の一環として年間研修計画に基づき、毎月事業所内で研修を実施しています。認知症ケアや看取りの研修では法人研修部門から講師を派遣してもらい、幅広い知識を習得しています。モチベーション向上のために職員に資格取得や外部研修への参加を勧奨しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	なかなか他事業所とのやり取りは無く交流は難しい。グループ内でホーム長・ケアマネ・主任・事務員の研修がそれぞれ実施され、そこで交流しながら相談しあったり勉強したりしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人からの聞き取り時には言葉だけでなく表情や声のトーンなども確認し、気持ちや想いを汲み取る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様からお話を伺う際には時間をかけて伺う様にしている。 否定はせずに受け入れる態勢をとる事で話しやすい雰囲気作りをし、少しでも不安を取り除けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お話を伺って受け入れが難しい場合は他事業所をご紹介している。 出来るだけ細かな情報収集をする為にケアマネや相談員と連携を取るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分で出来る事は自分で行ってもらうのはもちろんだが、他の方が難しい事や出来ない事があれば、出来る方が手伝えるような関係性が出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	何かあれば家族に連絡し相談しながら物事を決めるようにしている。 また面会に来ていただくように声を掛け関係が途切れない様に努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人知人から連絡が来た際にはすぐに本人に繋ぎお話をしていた。 iPadを使用してTV電話が出来るようになっている。	友人知人から来た手紙を代読し、交流関係が途切れないよう支援しています。コロナ禍で面会を一時中止していた時期がありましたが、家族などの要望を受け、タブレット端末の画面をテレビ電話に繋げるという支援で家族と利用者の会話が出来るようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	スタッフが関係性や性格を把握し、座る席等配慮している。 お互い不得意な部分は得意な方が手伝うようにし支え合いの関係性が出てきている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も相談事等あれば受けるようにしている。 必要があればこちらからも連絡する事もあり近況など伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から想いを汲み取る様にしている。 本人に聞き取りが難しい時には家族にも話を伺い、出来るだけ本人の気持ちを汲み取った支援を心がけている。	本人の思いや希望を日々の会話から汲み取り、出来る限り叶えるよう取り組んでいます。聞き取りが難しい場合は表情や目の動きで読み取ったり家族から話を聞いています。法人策定のLifeFocusアセスメント表をもとに本人がいままで辿ってきた人生・キャリア、趣味・余暇・好きなもの、これからの希望などを記載してもらい、より詳しく把握できるようになっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族にも話を伺い出来るだけ細かな情報収集を心がけている。 またケアマネや相談員にも話を伺い今までの生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	モニタリングを行い状態把握に努めている。 身近にいるスタッフに話を聞く事で細かな情報があがってくるので介護計画の更新や変更役に役立っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	関係者に話を聞いたりスタッフと話し合いをし意見を聞いて介護計画作成に生かしている。	ケアマネジャーが利用者本人、家族、職員から情報を集め、介護計画を策定しています。介護計画案は、介護スタッフ確認後に確定となります。今後は、利用者のこれまでと今、これからに関する情報を集約した独自様式の計画作りを検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常であった事や気づいたことは記録として残し情報共有している。カンファレンスの際には記録や意見を元に話し合い、介護計画作成に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々状態や気持ちが変わるのでニーズも変化しなかなか対応しきれないのが現状だが出来るだけ早急に対応するようにしている。今後はボランティア等も検討していく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会に加入している事もあるので今後は地域清掃やイベントにも積極的に参加していきたいと考えている。ホームで行う消防訓練では地域の方の参加も掲示板で募り少しでも地域貢献出来るようにしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	見学時や契約時に協力医療機関ご案内をし協力医療機関との契約は強制では無い事を説明している。協力医療機関で治療しきれない病気や怪我については外部受診を受ける事が出来るように往診医と連携を取っている。	利用者全員が協力医をかかりつけ医としています。月2回の訪問診療や緊急時の往診、他の医療機関への紹介、訪問看護師との連携、終末期の対応など円滑な連携が図られています。内科、皮膚科、歯科以外の受診については家族の協力で行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護に週2回来ていただき健康相談や必要な処置をしていただいている。 訪問医とも連携を取っていただき情報共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関とはこまめな連携を心がけている。お互いに情報は最新のものを共有し出来るだけ早めに退院が出来るようにしている。 退院前には出来るだけ本人に会わせていただき実際の状態を確認している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化看取り指針の説明を当事業所の考え方や方針をご理解いただいている。 主治医と家族の面談の機会を作りチームで看取りケアに取り組んでいる。	医療職が常駐していない前提で、入居時に看取り指針を家族に説明し、看取りの方針を話し合って共有しています。事業所での看取りが可能かつ現実になった場合は、主治医から家族に説明等を行っています。職員は看取りの研修を受け、チームで終末期ケアを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当の方法やAED・心臓マッサージの方法は研修で学ぶ機会を作っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練を行っている。 併設している小規模多機能と合同訓練を行い、夜間想定と日中想定で火事が起きた際の訓練をしている。訓練には地域の方にも参加していただける様に掲示板でお知らせし参加を募っている。	年2回、火災を想定した昼間と夜間の避難訓練を利用者を含めて実施しています。その他市の地震対策訓練、自治会の防災訓練へも参加しています。自治会長とは大災害時の住民の受け入れも話し合っています。災害に備えた備蓄品は法人が一括して管理しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフの気持ちや考えで動くのではなく個々のペースに合わせたケアを行う様にしている。 話しかける際にも丁寧な言葉かけを意識し不愉快な思いをさせない様に心がけている。	毎年プライバシーに関する研修を実施しています。トイレや入浴介助の場面では、小声での誘導や、施設、タオルをかける等利用者の羞恥心に配慮し、安全を優先に必要最小限の介助を心がけています。特に言葉遣いに注意し、利用者の尊厳を損なわないようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々の精神状態やADLに合わせ分かりやすい説明を行ったり、選択制にして自己決定がしやすい環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活リズムを大切に出来るだけ希望に沿ったケアをしている。 こちらから提案やお誘いをするが、決して無理強いしない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で洋服が選べない方には衣類を何着か出し、好きな洋服を選べるような工夫をしている。 化粧はなかなかする機会がないが、髪型は整えて差し上げている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	主に食器洗いや片づけを行っていた。食事量はここによって変えておりそれぞれが満足できる量を出ししている。月に一度手作りカレーとおやつの日がある。梅干し作りにも挑戦した。	コロナ禍で家族の強い要望もあったため、通常の調理済みの主菜と副菜以外に、行事食や月に一度リクエストに応えた選択肢メニューを提供しており、好評です。安全の確保ができれば、食後の片付けだけではなく利用者と一緒の食事作りも検討しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嚥下能力や好みに合わせて食事を提供している。 水分はチェック表を使用し水分摂取量の把握をしている。 水分がなかなか摂取出来ない方にはこまめに少量ずつ飲んでいただく様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科にきていただき口腔内の状態を診ていただいている。 毎食後の口腔ケアは一人では難しい方はスタッフが介助し磨き残しが無いようにしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	チェック表を確認しながら定時誘導させていただいたり、パターンを確認して声掛けをしたりしている。 出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。	利用者のトイレに行きたいサインを見つけて声をかけたり、その人のパターンや排泄チェック表を確認してトイレ誘導を行っています。職員との信頼関係が築かれることによって失禁等の改善傾向がみられています。介助では利用者の羞恥心やプライドへの配慮をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量は常に気にしている。 季節関係なく少しでも多く摂取していただく様に色々な飲み物を用意している。 毎日体操を行い体を少しでも動かす様にしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	集団生活なので入浴日一応決めているが、その日に入りたくない・体調が優れないなどあれば無理強いせずに時間をずらしたり翌日に変更したりしている。	入浴日を決めています、利用者のその日の体調や気分を大切に、無理のない入浴を提供しています。拒否に対しては日時や介助職員を変更するなど、本人の納得を得ています。菖蒲湯やゆず湯で季節感を出しており、特にゆず湯は利用者に喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室温照明の明るさには配慮し、ゆっくり休めるようにしている。 夜間にお部屋から物音や声が聞こえたら訪室しお話を伺う事で落ち着いて過ごす事が出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の内容把握をしっかりとしており変更や中止等があった際には必ず全員に周知し、薬情確認をしている。 新しい薬が処方された際には状態変化が無いか細かく様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物たたみや食器洗いなどの役割を行う事で能力が発揮され生き生きとした表情になっている。本人の自信にも繋がっている。 好きな物を家族に差し入れていただき好きな時に飲食できる様にしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	事業所の周辺を散歩する事が多い。 目の前にある小学校まで桜や季節の花、子供たちが走り回っている姿を見に行っている。 子供達の姿や声からいつも元気を貰って帰って来ている。	事業所は平地にあり小学校や広場もあるため散歩を楽しめる環境で、個別に職員が付き添って月に1回程度近隣を散歩しています。 買い物や理美容等での利用者の外出機会は殆どありません。	利用者の日常が施設から地域に広がるよう、家族や支援者の協力等を依頼するなど外出の機会を増やす工夫が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の預かりはしていない。欲しい物や必要な物があればご家族に相談の上、立替払いで購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族と話がしたいと希望された際には電話をかけていただき話ができるように支援している。 iPadも利用していただき顔を見ながら話ができるような支援も行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節毎の壁飾りを作成し飾ったりする事で馴染みのある温かい空間を作っている。日当たりはとても良く常にフローアに日が差し込んでいる。 照明は温かみのあるライトを使用し、落ち着いて生活出来るようにしている。	職員が毎日、また汚れた時はその都度清掃を行い、施設内を清潔に保っています。室内の温度や換気、採光、臭い等にも気を配り、快適に過ごせる空間としています。食事時には静かな音楽、活動時には皆で口ずさめる音楽を流すなど、その時々の利用者の雰囲気に合わせて環境づくりをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人で過ごしたい方にはお部屋にご案内しゆっくりと過ごしていただいている。 フローアには4人掛けのソファを設置しており、気の合う方と一緒に寛いでいただける様にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ今まで使用していた家具や使い慣れた物を持ち込んでいただく様に家族に協力していただいている。 そうする事によって少しでも落ち着いて過ごしていただける様にしている。	入居後の生活に早く慣れて安心してもらえるよう、入居時に家庭での生活で馴染んだ調度などを持ち込んでもらっています。居室での生活空間は馴染のものに囲まれ温かい雰囲気があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	色々な所に手すりが設置してあり、歩行時少しでも不安や危険が取り除けるようにしている。		

事業所名	グループホームはなことば高座渋谷
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホーム理念は玄関や事務所に掲示されておりスタッフがいつでも見れるようになっている。 その理念に沿ったケアを行う様にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入っているので行事等あれば参加しようと考えている。 事業所で行う消防訓練には地域の方のも参加していただける様に掲示板で参加を募っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	お問い合わせ等あった際には親身になってお話を伺う様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に出席された方にその場でご意見を伺う様にしている。 伺ったご意見はホーム内で共有し改善出来るように努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出席していただき事業所の取り組み等を報告している。 疑問や質問は適宜相談し連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を実施し各フロアで身体拘束にあたるような行為をしていないかの確認を行っている。 委員会で出た問題点は議事録の中に記載しスタッフに周知している。 研修では身体拘束の意味や内容をスタッフが理解出来る様な研修を行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を実施し虐待に繋がるような事はないかの確認をしている。 入社時には虐待防止の研修も行い、普段の言動に対する指導も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を学ぶような機会は無いが、必要な方が出ればそういった研修等を行ってスタッフが理解出来るようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には分かりやすい言葉を選び説明している。 質問には丁寧に答え、ご納得いただいた上で契約を結んでいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1度利用者もしくはご家族にアンケートをお送りしている。 アンケート結果は本社で集計し運営に生かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	面談を行い会議では言いにくいであろう意見の集約をしている。 全てが運営に繋がるわけではないが出来るだけそうなる様に努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課を年2回行っている。 評価をしっかり行い昇給等の査定をしている。 半期毎の目標設定を個々に行い、常に目標を意識してケアにあたっている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の能力に合わせた階級や研修を受ける事が出来るようにサポートしている。 最近はユマニチュード研修に力を入れており、リモートで外部研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループ外の事業所と交流する機会はない。 グループ内の他事業所であれ研修や見学の機会がある。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来るだけ個別に対応できる時間を多くとり、時間をかけて希望を汲み取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話などでまめに様子を伝えて安心していただける様にしている。 最初の頃はご家族も不安や疑問が多く出るののでしっかりと受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にアセスメントを細かく行い本人やご家族の希望や不安を伺い、何が必要か見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分で出来る事はゆっくりでも良いので自分で行っていただく様にしている。 スタッフや他の方のお手伝いもお願いし、役割や感謝の気持ちが持てるように関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との関係が途切れない様にこちらから相談の連絡をしたりし、意見や希望を伺っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人が訪ねてきた際にはお部屋にご案内しゆっくりと過ごしていただける様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合いそうな方の隣に座っていただくなど席の配慮をし、出来るだけ一人でポツンとしない環境を作る様にしている。 自分の洗濯物じゃ無くてもたたんだり食器を洗ったり出来るような助け合いの関係がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も連絡や相談があれば親身になってお話を伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なかなか本人から意向を伺う事は難しいのでご家族にも伺いながら出来るだけ沿ったケアを心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	何が好きで嫌いか等今までの時間を知る為にご家族や友人・親戚にも話を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や情報から状態把握をしている。 情報をしっかりと把握する事で心身状態に合わせた対応が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月会議の中で状態を話し合ったりしている。意見によっては介護計画の見直しも行い、現状にあった計画にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフは記録を確認し現状を把握している。気づいたことは記録として残し共有出来る様に努めている。必要があれば介護計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療面などは訪問医や訪問看護にすぐに連携し対応している。 お話好きな方の為に今後は傾聴ボランティアも検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	高校生ボランティアを受け入れを予定していたり、地域のお祭りに参加したりしている。 お祭りは近所の小学校の校庭で行われ子供たちとの交流を楽しむことが出来た。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の案内をし、メリットデメリットをしっかりと伝えている。 必要があれば外部受診の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護が週2回訪問し健康状態の把握や必要な処置を行っている。 状態によっては訪問医と連携し情報共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先とはまめに連絡を取り合い現状把握に努めている。 退院時には万全の受け入れ態勢が取れるようにこちらの情報も伝えている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取り指針の説明をし、その際に家族の意向も伺い今後の方針を決めていく。 本人の意向はタイミングをみて伺う様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	スタッフ万が一に備えAEDの使用方法や心肺蘇生法の研修を受けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練を実施している。 水消火器を使用し使い方の訓練も行っている。 地震の際の避難訓練にも大和市から通知が来た際に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	敬語や様付の徹底をしている。 丁寧な対応を心がける事でその方の自尊心を傷つけたりしない様な対応をしてる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来るだけ関わりを持ちながら話がしやすい環境を作り意思の確認などをしている。 気持ちが表しにくい方には選択肢を出すなどし自己決定しやすい環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団生活なのである程度の決まり事や時間の流れはあるが、無理強いはせず にその方の希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服等出来るだけ自分で選んでいただける様な支援をしている。 選ぶことが難しい方には選択肢を作り 選んでいただく様にしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みや口腔状態等を把握をし、食事を美味しく感じられるような支援をしている。 食器洗いなど出来る方には行っていたく様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事摂取量や水分摂取量の把握をし食事量や形態の調整をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必要な方には口腔ケアの際お手伝いさせていただいている。 必要があれば訪問歯科の診察を受け良い状態が出来るだけ保てるように努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄リズムの把握に努めている。 そこからタイミングを見てトイレにお連れし便座に座っていただく様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体を動かせるように体操をしたり水分摂取量に気を付けている。 水分をなかなか摂っていただけない方にはスポーツドリンク等もお出しし少しでも飲んでいただける様にしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	出来るだけその方のタイミングで入浴できるような支援をしている。 季節に合わせた菖蒲湯やゆず湯なども提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	好きな時にお部屋に戻り休んでいただく様にしている。 疲れた様子や眠そうな様子が見られた際にはこちらから声を掛けお部屋にお連れしベットで横になって休んでいただく様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬内容をスタッフが把握出来るように変更等あった場合には申し送り等で周知している。 服薬後に体調に変化があった際には主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物たたみや食器洗いなど生活の中で出来る事を生かしながら自分の役割として考え生き生きと生活している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	なかなか希望通りに外出する事は難しい。 家族にも協力していただきながら外出する機会を作る様にしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はホームで預かる事はしていない。 欲しい物や必要な物は立替払いで購入している。 購入前には家族の了解を得るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族とは電話でのやり取りが多く、本人が話をしたいと希望されたり元気が無い時などにこちらから電話をし話をしていただくような支援をしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中は窓から日の光が差し込みやすく明るく温かい。 照明は落ち着けるように温もりのある明るすぎない物を使用している。 フロアの室温は時間帯や季節に合わせて調整し、お部屋は個々の好みや体調に合わせて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食席以外にも4人掛けのソファを設置しゆっくりお話ができる空間作りをしている。 一人になりたい時にはお部屋にお連れしたり、少し離れた場所にイスを設置する等している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所前から使用していた馴染みのある物を出来るだけ持ち込んでいただき安心して過ごせる空間作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下など色々な所に手すりを設置し自分で安全に移動しやすい様な環境を整えている。		

2024年度

事業所名 グループホームはなことば高座渋谷
作成日： 2024年 11月 27日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	新型コロナウイルスが発生してから地域や自治会との繋がりが薄くなっている。	以前のように地域や自治会との関りを大切にし、地に根付いたホームを目指す。	地域や自治会の催し物や活動には積極的に参加し協力していく。その際には入居者も一緒に参加していただく。	12ヶ月
2	4	運営推進会議で活発な意見交換が出来ていない。	運営推進会議の際に参加者が自分の伝え合う事が出来るようになる。	運営推進会議には自治会長や民生委員の方にも参加していただき会議の活性化をはかる。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月